

回想法センター創刊 4月号

平成27年 3月30日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p www16.ocn.ne.jp/~piakaiso

桜前線もほころび始めました

命山(いのちやま)

「命山」は、土を盛り上げ人工の高台を築いて津波や、高潮から命をまもってきた江戸時代から伝わるもの。この人工の高台が、津波からの避難場所に注目されている。今の静岡県袋井市で台風による高潮で多くの死者が出た。その教訓から逃げ場となる小山を二つ築いた。山は歳月に耐えて残り今は県の文化財になっている。古人の知恵は素朴で理にかなっている。



東日本大地震は、避難を迷ったり、物を取りに戻ったり、もう10秒、あと10mで命を落とした方もいたように、逃げることの大切さを教訓に残した。「命山」には、無念の涙を忘れまいとの誓いが伝わってくる。有史以来、日本列島に地震は絶えず、阪神淡路大地震からわずか16年で東日本大地震が起きている。家も故郷の町並みも大事だが、一番は命につきると痛感させられた。備えあれば憂いなし。「命山」に限らないが、硬軟の策を織り交ぜ、人の命を守る備えが欠かせない。

4月の予定

おしゃべりサロン

開催場所 龍ヶ崎市役所地下食堂後

開催時間 2時～4時

開催日 13日(月) 27日(月)

お節介おばあちゃん

マダガスカルで医療過疎地で通算四半世紀助産師を続ける81歳の女性をテレビで紹介していた。

京都の仏教徒の家に生まれ育ち、看護学校の先輩に誘われカトリック教会に通い始め、親に内緒で洗礼を受けた。以後、シスター兼助産師として、修道会の依頼に応じ、東京、札幌、台湾などに赴き、多い日は1日8件の出産に立ち会ってきた。

1979年マダガスカルに派遣され、麻酔なしの手術、使い捨て注射器の再利用、基本的な医薬品も乏しく、日本では生き延びる未熟児が当たり前のよう死んでいく厳しい現実に体調を崩し、3年後に帰国。東京の病院を定年退職した1994年「私を一番必要としたところへ」の思いに駆られ、再び医療過疎地アンツィラベに戻った。

6畳一間の宿舎で暮らし、現地の産院で若い助産師たちの指導に当たっている。「趣味は人助け」と笑顔で語るその横顔は実に穏やかで優しい。「人に喜んでもらえて、自分も温かな気持ちになれる。そんな、お節介おばあちゃんもいてもいいでしょう。そんなふうに思っただけならどんなにか幸せなことでしょう」と微笑むお顔は「マザーテレサ」のように感じました。「言葉なんて関係ないの。赤ちゃんは人の表情を見ているのだから」と。幾つになっても、どんなことでも、人の役に立てることは幸せなことのようです

認知症家族会・あおぞら

開催場所 龍ヶ崎市市民活動センター

開催時間 13時30分～15時

開催日 4月1日(水)